

キッズパークによるスキー場の活性化に関する事例研究

A case study of the revitalization of a skiing area by snowpark for kids

下平 佳江*1§、加藤 麻樹*2
Yoshie SHIMODAIRA, Macky KATO

Abstract: The skier population has been going down for nearly 20 years. In the recent years, some of the skiing area is attempting to promote the kids. In this study, the investigation of a public skiing area has been held to reveal the effect of snow park for the kids on revitalization. As the results, it was revealed that the families with their kids would come to the park with pleasure, when they have been interested in the contents in the park. They need the staffs who play with the kids, and the events which the family can participate together. And they also need the playing facilities such as a sleigh, a snow tube and a slide, and facilities like a nursery, restaurants and a moving pavement. The number of visitors increased about 18% after the promoting. It indicates that the attraction for the visitors can effect to the revitalization of skiing area

Key words: skiing population, promotion of skiing area, winter leisure, snow park for kids

1. はじめに

日本におけるスキー場利用人口は、経済成長とともに1980年代後半から急増し1992年にピークを迎えるが、バブル崩壊後は縮少が続いている。「レジャー白書」によれば、スキー人口は1993年の1860万人から2011年の650万人に減少し、スノーボード人口320万人を合わせても970万人である⁽¹⁾。1998年に冬季オリンピックが開催された長野県はスキー場利用人口が国内で最も多く、スキー場数も北海道に次ぎ2番目に多い。県内のスキー場数は1992年のピーク時に110か所で、2006年までほとんど数が変わることがなく、2006年以降は若干減少傾向が続き、2013年度は95か所となっている。スキー場利用者数はピーク時の2,119万に対し2012年度は709万人で、ピーク時の約3割まで落ち込んでいる⁽²⁾。全国的には利用者数の落ち込みはピーク時の5割である⁽¹⁾のに対して、長野県の落ち込みは最大規模となっている。

なお、2010年からの利用人口の微増に対して、落ち込みに歯止めがかかったと期待する見方もあるが、スキー人口は2009年を100とすると、2015年で48.0%まで落ち込み、2030年には22.5%となる

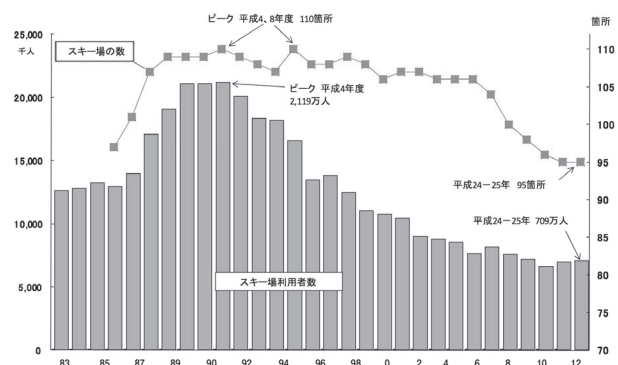


図1. 長野県のスキー場利用者数の推移⁽²⁾

との予測もある⁽³⁾。

観光県長野にとって冬季のスキー場営業はその地域にとって基幹産業として位置づけられ、収入と雇用機会を得る手段であることから、利用客が減少して索道収入が低下しても営業を続けてきたのが実情である。そのため体力のないスキー場であっても淘汰されずに残っており、利用人口に対して供給過多であることは否めない。さらに、搬器の輸送力が向上したこともあり、常時「空席」状態で、ピーク時の混雑とは雲泥の差がある。

その少ない利用客の獲得のため、近年、スキー業界ではさまざまな取り組みが始まっている。鉄道会社などからのスキー場の売却、およびファンダや

*1 長野県短期大学生生活科学科生活環境専攻 *2 早稲田大学人間科学学術院
§ 連絡先 〒380-8525 長野県長野市三輪8-49-7 TEL 026-234-1221 FAX 026-235-0026

事業者による買収・統合でスキーリゾートの経営・運営の再編が進んでいる⁽⁴⁾。その他のスキー場でも、小学生以下のリフト代を無料化したり、スノーボーダーの受け入れをするなど利用者確保のための様々な経営努力を行っている。

「長野市飯綱高原スキー場」では、2012年度にキッズスノーパーク（以下キッズパーク）を新設した。日帰り客が大部分を占めるスキー場という特性を考慮して、長野県短期大学と産学共同で、親子で楽しめるイベント企画と運営を行っている。2013年度には新キャラクタを導入して、スキー場利用客へのサービス向上に努めている。



図2. 飯綱高原スキー場キッズパーク

2. 目的

日本人のレジャーからスキー離れが進む中、今後のスキー場利用者を獲得するためには、想定される来場者の特性を考慮し、安全で楽しく、かつ利用しやすく、より満足度の高い施設・設備を提供することが重要な条件となる。ファミリー層をターゲットにしたキッズパークも戦力となり得ることが推定され、今後、キッズパークを併設するスキー場が増えていくことが予見できる。本研究では、飯綱高原スキー場キッズパークでの現地調査を基に、利用者の動向を整理し、利用者が満足する遊びの環境と機会の提供に関する提言を行うことを目的とする。

3. 方法

3-1. 運営補助による現地調査

3-1-1. 調査対象の概要

長野市飯綱高原スキー場では、ファミリー層の利用割合が増える休日にキッズパークを開設する。動く歩道が設置された「そりゲレンデ」は、スキーを始めるには不安を感じる低年齢層の子供が、ゆるやかな斜面でソリ遊びをすることで、徐々にスピードや雪に慣れ親しむことができ、いずれはスキーへの移行を期待し促すものである。そりゲレンデに隣接して「雪ん子ひろば」と「深雪の森」があり、ここを利用する雪遊びとして、「宝探し」、「なぞなぞコーナー」、「雪の結晶観察」、「雪像の作成」などの5種類のアクティビティを設定し実施した。（図2）。

3-1-2. 産学共同参画状況

これらの企画・運営に際しては、当該スキー場の運営母体である長野市開発公社より依頼を受け、著者らの他、長野県短期大学の学生有志が参加し、雪

遊びの企画・提案と、子供たちと遊びながらの観察を行った。さらにスキー場の新イメージキャラクタの設定に際しては、全国から公募したデザイン画の選考およびネーミング決定にも共同で参画した。また、調査時には著者らによる当該スキー場関係者へのインタビューも併せて実施した。

3-2. 利用者へのアンケート調査

飯綱高原スキー場キッズパーク利用者を対象として、来場回数や来場理由、保護者のスキー経験など15項目のアンケート調査を実施した。調査実施日に関しては、回答者の重複を避けるため2013年2月中旬の休日3日間に限定した。有効回答数は48である。（別添参考資料を参照）

4. 結果

4-1. 観察概要

キッズパーク入口にはオレンジ色のねずみの巨大バルーンが設置され、色調による誘目性が高いことから、当該スキー場の駐車場に着いた低年齢層の子供たちを引き付ける効果がある。

また、「雪ん子広場」には、ミニシャベルや砂場で使う型抜き容器などを置いて自由に使えるようにし、学生スタッフが未就学児に雪だるまの作り方を教えた（図3）。

「雪の結晶観察」は、温度と湿度によって変化する結晶の資料⁽⁵⁾に小学生や大人が興味を示した。

「宝探しゲーム」は、利用客が多い年始や連休などを中心に実施した。「当たり券」を入れたカプセルを雪中に埋めておき、子供たちが一斉に掘り出すゲームである。子供が見つけれない場合は親も参加して熱戦が繰り広げられる。



図3. 雪ん子広場で子供と遊ぶ学生スタッフ

森の中に立て看板を設置した「なぞなぞコーナー」では、親子連れが楽しそうに謎を解きながら散策する姿が観察された。

これらのイベントを含むキッズパークの本格的開設により、パークの利用人口を対前季比500%と大幅に増加させることができた。また、パーク利用者の増加に伴ってスキー場全体でも利用人口は対前季比118%となり、長野県内では利用者の増えたスキー場の上位5位の実績を上げることができた⁽⁶⁾。翌2013年度のキッズパーク利用人口は対前季比105%とすることができた。また、スキー場に導入した新キャラクタとのじゃんけん大会を毎週末に加え、スキーレンタル等も開始したことで、スキー場全体の利用人口は対前季比114%となった⁽⁷⁾。(表1)

これは、県内スキー場の上位4位であり、集客力がアップしていることが明らかである。

4-2. アンケート調査の結果

有効回答者48人中38人が長野市在住で、それ以外の10人は県外（関東、東海、関西）であった。平均来場回数は2.9回である。来場した理由として最も多いのが「近い」、次に「パークがある」となっており、長野市内の利用客にとって間近な存在となっている。加えて、パークがあることが子供を安

表1. 利用者が増加したスキー場2013⁽⁷⁾

	スキー場	延利用者数(千人)		対前季比	増加の理由
		12-13年	13-14年		
1	HAKUBA VALLEY 白馬乗鞍温泉	54	65	120.2%	白馬-小谷間の無料シャトルバス
2	白樺リゾート	24	28	119.2%	スノーパークの充実、テレビ等の広報
3	車山高原	100	115	115.1%	前年の笹子トンネル事故の影響から回復
4	飯綱高原	47	54	114.3%	キッズパーク、お得な料金パック、スキーレンタル開始
5	HAKUBA VALLEY 爺ヶ岳	27	30	112.6%	家族向けスキー場としてのPRが浸透

全に楽しく連れてくるスキー場として選択される理由であることがわかる(図4)。

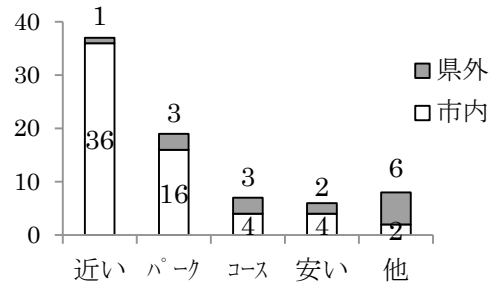


図4. 来場の理由

キッズパーク利用者が要望する遊具・設備として、「チューブや速いソリ」等の滑走遊具、「滑り台」、「大人も入れるかまくら」などが挙げられた。他に、「おむつ替えや授乳できる保育室」や「売店」、「親が短時間でもスキーがしたいので子供だけで遊べる場所」などが挙げられている(図5)。

親にスキー(またはスノーボード;以下省略)経験があるのは45名で、3名はスキー経験がない(図6)。経験者45名のうち、継続しているのは20名である。今後のスキー実施について「希望あり」は40名で、「希望無し」は8名である。

親がスキーをするために必要な条件として、①時間、②道具、③託児施設という回答が見られた。他に「費用」、「気力」が挙げられている。(図7)

キッズパークに対する満足度については、「満足」

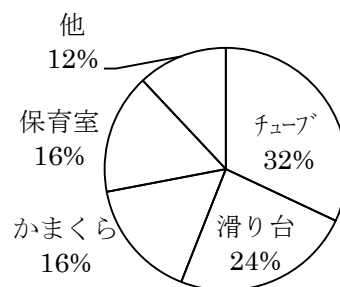


図5. 要望する遊具・設備

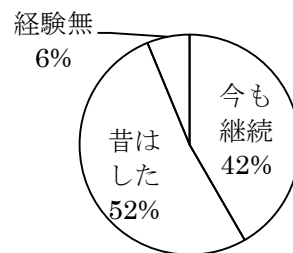


図6. 親のスキー経験の有無

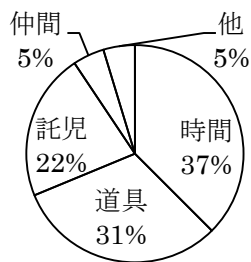


図7. 親がスキーをするために必要な条件

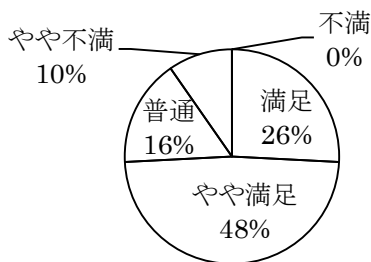


図8. キッズパークへの満足度

と「やや満足」と答えた人は74%（35人）である。「やや不満」と答えた人は10%（5人）で、その内容は「コースの長さや広さ」、「動く歩道の形状」、「入場料」に関するものが各1件ずつである。（図8）

5. 考察

5-1. 観察調査から

巨大バルーンの滑り台、宝探しゲーム、新キャラクターとのじゃんけん大会などの各種アクティビティの企画実施が、利用者増加の実績に大きく寄与したと考えられる。ソリやスキーの合い間に、雪ん子広場で型抜き容器を使って遊んだり、かまくらや雪像を親子で作るイベントは、遊びと行動のアクセントとなり、パークでの滞在時間を長くする効果があると考えられる。以下、各アクティビティごとの考察結果を記述する。

5-1-1. 宝探しゲーム

宝探しゲームには毎回70～130組の親子が参加した。スキー場ならではの非日常的なイベントとして楽しめることから今後の継続の効果が期待できる。開催時刻については、12時から整理券を配布した際、ゲーム開始の14時までは居られないという家族が毎回観察されたことへの対応として、13時からを目安に開始すると参加者が得られやすくなると思われる。また、ゲーム性を高めるためにカプセルの数を参加者の半分にしたが、「見つけれない」と子供が泣き出す事態が生じ、本来楽しいはずの雪遊び

が辛いものになってしまう事例が確認できた。その対応として、途中から全員分のカプセルと景品を用意した。未就学児から小学生まで幅広い年齢層の子供が参加するイベントであるため、このような配慮も必要であることが明らかとなった。

5-1-2. 雪ん子広場

砂場の型抜きセットを広場の雪の上に出すだけでは、利用する人が少ないため、「みんなで仲良く使ってね」という看板を立てた結果、使用する人が増えた。また、雪だるまや小さなかまくらを1つ設置することにより、その後訪れた親子によって雪像が作られ、個数が増えていた事例から、雪だるま等の雪像の存在は、「ここで遊んでも良い」という『シグナル』になったことが明らかとなった。この例のように、多くの保護者は「ここで遊んで良いか分からない時は利用しない」ので、誘導標識などの必要性が感じられた。また、子どもたちに雪だるまの作り方を教えたり、一緒に遊ぶ学生スタッフの存在については、保護者やスキー場関係者からの評価が高く、今後も継続する意義は大きいと言える。

5-2. アンケート調査から

5-2-1. スキー場の誘因要素

バルーンのような大型遊具は、周辺スキー場との差別化の効果をもたらす。しかし、今後周辺スキー場が同様の遊具を設置した時、さらなる差別化を図るためには、キッズパークのイベントの充実、使いやすく安全な施設・設備整備の他、以下に示す視点が必要である。

キッズパーク付近の食堂には子供向けのメニューが少ない。アンケート結果には「お子様ランチ」や「売店があるとよい」という意見が見られたことから、今後の質的充実を図る際の参考とすることができた。また、昼食を持参する家族のために、天気の良い日は屋外にテーブルや椅子などを設置して、自然の中で食事ができる環境を提供することもスキー場の魅力作り・質的充実策の一つとして検討すべきであると考えられる。

レンタル用品の提供もその一つである。子供の成長は速く、スノーウェアや用具は数年で買い替える必要が出てくる。従って、使用回数が少ない場合はレンタル品の利用が多くなる。「ここはレンタル料金が安いから来る」という調査回答意見があるように、他スキー場と比べて半額程度で提供できるレンタルサービスをもっとアピールすることで、更なる来場者拡大が図れると思われる。

5-2-2. 子育て世代への対策

長野市に近いスキー場でありながら平均来場回数は2.9回という結果からは、子育て世代のニーズを詳しく知ることにより、今後の来場回数を増加させる可能性があることを示している。

「親がスキーをするために一番必要と考えるもの」は『時間』という本研究結果からは、親にスキーをする時間的ゆとりがないことが明らかになった。これは、冬季レクリエーション活動を制約する条件として、最多事由が、「十分な時間がない」、次いで「費用がかかりすぎる」、「寒さや天候」、「交通条件が悪い」、「健康上の理由」であり、中でも「時間」を理由にしている年齢層が20～40代であるという調査結果⁽⁸⁾と同じ傾向を示す。小さな子供の体力を考えると、往復の移動時間も含めて短時間で楽しめる「家から近いスキー場」は、時間のない親にとって「仕事や家事の合間に手軽に利用できるスキー場」としてセールスが可能である。

次に必要なものとして「道具」が挙げられている。スキー経験者の中には昔使用した道具を保有している人もいると思われる。カービングスキーが主流の現在では、使いにくいケースもある。また、子供に教えながら滑るには回転性能が向上したカービングの方が扱いやすい場合が多い。従って、スキーを再開する親にとっても道具のレンタル需要は高いと考えられる。

次に多かったのが「託児施設」である。「親も短時間でもスキーがしたいので子供だけで遊べる場所があるとよい」という意見もあり、今後の検討課題である。

5-3. 施設設備の改善例

調査手法のフィードバック事例として、施設設備の改善があげられる。すなわち質問紙に「動く歩道の降り場付近の傾斜で、スキーを履いた子どもの移動が困難になる」という回答があり、現場でも確認された。この事実をスキー場関係者と共有したことで、降り場付近の利用者の動線を改善する工事が実施され、以降の利用が円滑化されると考えられる。

5-4. 天候情報の提供

スキーは降雪量やその日の天候によって客足が左右される。長野市街が降雪中でもスキー場は晴天というケースもある。天気や道路の積雪情報を随時提供することにより、長野市近辺の利用客の増加に資することが可能となる。

5-5. スキー場利用人口の増加にむけて

5-5-1. キッズパークの設置

幼少期から雪に親しむ経験により、将来再度スキー場に来場する傾向があるとする知見により、キッズパークの設置は、将来的にスキー人口を増やす可能性を高めている。

新潟県「苗場スキー場」では、雪を使わない室内練習場を設け、スキーが初めての子供向けのレッスンを開始した。群馬県「水上高原スキーリゾート」でも、チュービングやスノーラフティングなどが楽しめる「キッズパーク」と、1～5歳児専用の「キンダーガーデン」を新設し、宿泊客のスキー場利用者数を伸ばすことに成功している⁽⁹⁾。本調査地である飯綱高原スキー場の「キッズパーク」は、長野市内等の家族連れが日帰りで楽しめるようなコンセプトで設置されている。特にバルーンの滑り台のような遊園地感覚で使える大型施設や宝探しなどのイベントの充実、子供と一緒に遊ぶ学生スタッフの存在等により、利用人口を増加させたことが明らかとなった。

5-5-2. シニア層の呼び戻し

シニア層の中には、かつてスキーをしていた世代が相当数いると予想される。本アンケート調査でも、キッズパークに孫を連れてきていた4名の祖父母全員がスキー経験者であった。今後のスキー実施の希望に対しては、「体力的に無理」という回答結果の通り、一度中断したスポーツを再開する際には慎重になる傾向がある。従って、シニア層のスキー復活の要件としては、操作が容易で体力的にも楽なカービングスキーを体験する機会の提供が必要である。また、スキーが無理でも「孫とそり遊びをしたい」と思う祖父母は相当多いと思われる。時間のない親に代わり祖父母と孫が遊べるイベントを今後提供できるとよい。

5-5-3. スキー未経験者の掘起し

近年は、温暖化の影響により長野市内でも積雪が少なく、市街地ではソリ遊びのできる場所が減っている。雪の中で遊ぶことは、子供の成長にとって身体機能や心肺機能を高める効果があり、ソリのスピード感や爽快感は通常の生活では体感できない。また、冬季の運動不足解消にもなり、多くの子供たちにスノースポーツの機会を提供できることが好ましい。スキー未経験者にスキー場へ来場してもらうためには、スキー場でソリができることや、宝探しなどのイベントにも参加して楽しめるという情報を、

ファミリー層に広く PR する必要がある。

6. まとめ

スキー場利用人口の大幅な減少に伴い、スキー場業界の再編が進められる中、ファミリー層を対象とした戦略が、利用者減少に対して効果をあげる事例を示した。中でも、日帰りスキー場利用者の指向が、いわゆる「安・近・短」にあることが明らかとなった。このとき必要な具体的方策と効果として以下のものがあげられる。

- ・雪遊び施設による3世代のファミリー層誘致
- ・道具やウェア等のレンタルの充実による費用、および移動負担の削減
- ・天気情報の提供、道路の除雪等によるアクセスの向上

このうち、雪遊び施設では、以下の要件が求められることが分かった。

- ・雪遊びのバリエーションと週末イベントによるリピータの獲得
 - ・動く歩道や託児設備等の充実による使いやすさ
 - ・食堂の子ども向けメニューの充実・売店の設置
- 以上の観点から、対象とした飯綱高原スキー場キ

ッズパークは、今後のスキー場経営におけるモデル事例とすることが可能といえる。

参考文献

- (1) レジャー白書 2013, 公益財団法人日本生産性本部, 2013
- (2) 長野県観光課観光企画課, 統計から見る長野県観光の現況, 2013年9月
- (3) 大林守, 日本スキー人口はどこまで滑落するのか?, 専修商学論集 93, 91-98, 2011
- (4) 金澤武彦, 変わる業界勢力図, 月刊レジャー産業 2007.11, 97-101
- (5) 神田健三, 中谷宇吉郎, 雪の科学館, 伝熱, 44 (188), 12 - 14, 2005
- (6) 平成 24-25 スキー・スケート場の利用者統計調査結果について, 長野県観光部, 2013年6月
- (7) 平成 25-26 スキー・スケート場の利用者統計調査結果について, 長野県観光部, 2014年6月
- (8) 浅川昭一郎, 五十嵐芳樹, 積雪寒冷都市における冬期屋外レクリエーション計画のための需要分析, 造園雑誌 52 (5), 336-341, 1989
- (9) 特集 新興勢力がつくるスキーリゾート, 月刊レジャー産業編集部, 2013.7, 106-107
(平成 26 年 10 月 1 日受付、平成 26 年 11 月 28 日受理)

資料1 飯綱高原スキー場のキッズパーク来場者アンケート

飯綱高原スキー場のキッズパークへようこそ！

キッズパークをこれから充実させていくために、ご利用いただいた方のご意見をお聞きしています。

次の各質問についてお答えください。ご協力よろしくお願いたします。

長野県短期大学 人間工学研究室 下平・加藤

お子様の年齢・性別 ()才・(男・女)、 ()才・(男・女)、
()才・(男・女)、 ()才・(男・女)、
お住まいは ()県、 ()市

- 1) 今日は何人でいらっしゃいましたか。あてはまるものを○で囲んでください。
1人、 2人、 3人、 4人、 5人以上
- 2) 今日の交通手段は何ですか。
自家用車、 バス、 他 ()
- 3) お子さんが好きな雪遊びを、○で囲んでください。いくつでも結構です
ソリ、 スキー、 スノーボード、 かまくら作り、 雪だるま作り、 雪の結晶観察、
森の探検、 雪合戦、 宝探しゲーム、 他 ()
- 4) このほかに、キッズパークにあったらいいと思うもの(遊具や設備)は何ですか。
- 5) 冬のスノーシーズンには何回位、飯綱高原スキー場に来ますか。 ()回
- 6) 飯綱高原スキー場へ行こうと思うきっかけ(理由)は何ですか。いくつでも結構です。
家から近い、 リフト代が安い、 コースがちょうどよい、 キッズパークがある、
他 ()
- 7) あなたご自身について伺います。年齢・性別を教えてください。
年齢 ()才、 性別 (男性 ・ 女性)
- 8) あなたご自身は、スキーやスノーボードをしますか。あてはまるものを○で囲んでください。
する (スキー・ スノーボード)、 昔はした (スキー・ スノーボード)、 しない
- 9) 今も(今は)スキーまたはスノーボードをしたいと思いませんか。
思う (スキー・ スノーボード)、 思わない
- 10) ⑨でスキーかスノーボードをしたいと答えた方に伺います。そのために必要なものは何だと思いませんか。
道具、 仲間、 時間、 大人向けスキースクール、 託児施設、
他 ()
- 11) ⑨でスキーやスノーボードをしたいと思わないと答えた方に伺います。その理由は次のうちどれですか。
道具がない、 面倒である、 子供の相手をする必要がある
体力や技術的に自信がない、 他 ()
- 12) 飯綱高原スキー場全体について、希望があればお書きください。
- 13) 最後の質問です。「飯綱高原スノーキッズパークに満足していますか？」
かなり満足、 やや満足、 どちらでもない、 やや不満、 かなり不満
ご協力ありがとうございました。